

イネ科 広義スズメノカタビラ (*Poa annua* L.) (p1)



図1：広義スズメノカタビラ



図2：根を洗い丁寧にほぐし並べた。



図3：図2左下の主個体の基部。



図4：やや長い(20mm)根茎がみえる。



図5：中央右に、すでに枯れた花序が残る。

はじめに

広義のスズメノカタビラは、越年草または短命な多年草とされることが多いが、図1にみられるような大株はごく普通にみることが出来る。単なる越年草であるならこのような大株になるのは大変不思議であり、そのメカニズムを解明すべく大きな個体を調べてみた。

材料と方法

2007年3月22日、埼玉県和光市の農道わきの路上で採集。株全体をほりあげ、根茎部分を丁寧に洗いながらほぐして並べてみた(図2)。

結果

◇主個体(図2の左下)を中心に合計29個体により、大きな株が形成されていた。

◇主個体の基部はごく短い根茎(最長で20mm)でつながり、8個の分けつ体がみられた。(図3・図4)。

◇主個体以外の分けつ体でも、それぞれが基部で2~3分けつしている例が普通にみられた(図6・図2)。

◇採集した時点(3月)ですでに枯れ花序が残り、新たな花序を次々に用意している(図5)。

考察

主個体につながる8個の分けつ体から考えて立派な多年草である。図6の分けつ個体の基部の状態をみると、この分けつは当年性のものではないと考える。

種子は植物体の付近に落下して次の芽を出すため、時とともにこのような大株に至るものと考えられる。本種はどこにでもあり1年中花を咲かせている感があるが、こうした優れた繁殖形態をもった植物である(2012/7/6 山口純一)



図6